

科目名称	芸術心理学		授業コード	10001322	
担当教員	辻本 道子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 芸術・文化
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格	教職				

授業実施方法	混合授業（対面 12 回、遠隔（オンデマンド）3 回）
使用するアプリ等	KDU ポータル及び Teams、Stream
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	芸術作品を作り出すこと、鑑賞すること、両者ともに人間の営みである。芸術作品は人間自身の内的活動の表出であり、芸術鑑賞は人間自身の内的活動への認知である。この人間自身の内的活動について心理学の科学的知見を学ぶことで芸術活動への理解をより深める。
授業計画の概要	近年、哲学から出発した心理学は脳神経科学領域へと進展し、その科学的な分析対象は「観察可能な行動」から「脳活動」へ拡大した。これにより明らかとなった芸術や美の背景にある心の働きのより詳細かつ多様な要因について科学的に理解することで、芸術活動の人間にとっての意味を心理学的側面から考える力を修得する。また、遠隔授業と web テストによって修得した知識について自分のペースで確認し、人の心と表現の関係性を自らの創作に生かせる力を養う。
授業計画	第 1 回 ガイダンス、心理学の歴史－哲学から脳神経科学まで 第 2 回 心理学における知性と感性 第 3 回 心の入り口はどこ？－感覚のしくみと種類 第 4 回 芸術のよさ－対象（作品）から①（プレグナンツ・対称・重心） 第 5 回 芸術のよさ－対象（作品）から②（ピークシフト・黄金比・フラクタル）・【第 1 回小テスト】（遠隔） 第 6 回 芸術のよさ－対象（作品）から③（印象・覚醒ポテンシャル・単純接触効果） 第 7 回 芸術のよさ－主体（鑑賞者）から①（典型的景観・構図・恒常性） 第 8 回 芸術のよさ－主体（鑑賞者）から②（コーピングポテンシャル・感情評価理論・面白さ） 第 9 回 視覚情報の知覚・認知－色覚障害とユニバーサルデザイン 第 10 回 色嗜好・配色嗜好・【第 2 回小テスト】（遠隔） 第 11 回 形状嗜好①（物体） 第 12 回 形状嗜好②（空間） 第 13 回 対人魅力と美感 第 14 回 対人魅力の形成過程 第 15 回 顔魅力に関する形態的要因・絵画鑑賞の時間特性・【第 3 回小テスト（最終試験）】（遠隔）
実務経験のある教員	
授業時間外学習	【予習】生活の中で目にしたり耳にしたりする中で魅力的だと感じるものについてスケッチや写真、録音や動画などで記録を取り、各回の講義の中で学んだトピックスに沿って、それらの魅力の源を考えたり、家族や友人と感じ方を話し合うことで内容の理解を深めること。（1 時間） 【復習】授業では専門的な用語が出てきたり、科学的な理論やその根拠となる図やグラフ等が多数あり、授業での説明や理解を確認するための時間が必要であり、また回を重ねるごとに積み重ねられた知識の関連性に気づくことが出来れば、より人間の心理への理解と応用へ発展さ
評価方法	授業中に行う 2 回の小テスト 50%（1 回 25%）、第 15 回に行う最終試験 50%の割合で換算した点数によって評価する。
指導方法	授業内で行う 2 回の小テストの結果によって全体の理解が難しい内容については、後日の授業内で補助的な説明や解説を行う。
使用テキスト	適宜プリント配付
参考テキスト・URL	・三浦佳代/川畑秀明/横澤一彦、シリーズ統合的認知第 5 巻 美感-感と知の統合（2018）勁草書房・新 ・知性と感性の心理－認知心理学最前線（2014）福村出版 ・脳は美をどう感じるか－アートの脳科学（2012）ちくま新
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	日本の歴史		授業コード	20001720	
担当教員	熟 美保子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	日本の対外関係史について基礎的知識を習得する。また、現代に根ざす諸問題を歴史的に理解する。
授業計画の概要	この授業では古代から現代までの日本の歴史について、国際関係を中心に概説的に講義する。たとえ海に囲まれた島国であっても、いつの時代でも外部と一切関わりを断つことは出来ず日本は成り立たない。国際関係を基軸に講義することで日本のあゆみを知り、現代社会につながる諸問題について理解を深めていく。
授業計画	1：ガイダンス 2：「日本」のなりたちについて学ぶ 3：遣唐使について学ぶ 4：古代の出入港地について学ぶ 5：元寇と倭寇について学ぶ 6：西洋人との出会いについて学ぶ 7：日本人の海外進出について学ぶ 8：朝鮮出兵について学ぶ 9：「鎖国」の成立過程について学ぶ 10：近世の日朝関係について学ぶ 11：長崎に来航した異国人について学ぶ 12：神戸の居留地について学ぶ 13：近代知識人の思想について学ぶ 14：満鉄がもたらしたものについて学ぶ 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	日本のおかれた現状を知るために、日頃から新聞やニュースなどを見る習慣を身につける。
評価方法	定期試験（80%）・コメントシート（20%）
指導方法	
使用テキスト	毎回プリントを配布する。
参考テキスト・URL	適宜紹介する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	世界の歴史		授業コード	10001730	
担当教員	磯部 直希				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	2015 年度以降入学生限定
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時に取り上げた人名、地名、事項等の基本的な項目を体系的に説明できる。</li> <li>・ 歴史上の出来事が生じた原因、辿った経過、後世への影響について流れを追って理解し、因果関係を論述できる。</li> <li>・ 地域や時代によって異なるさまざまな価値観に対し、先入観を持たずに向き合い、世界の多様性を理解できる。</li> <li>・ 歴史学的方法論を体感し、自身の関心や学習に応用して思考できる。</li> </ul>
授業計画の概要	<p>「歴史」を学ぶとは、全ての事物がそのように「なってきたものである」ことを知ることに他ならない。今を生きる私たちは、先の見えない将来や不安に満ちた世界に相対しながら、日々自らの辿る生の道筋を描いている。かつて生きてきた全ての人々もまた、時代や場所、民族や集団、身分、性差、経済、さまざまに限られた前提や条件の中で苦闘し、あたらかぎりの生を綴ってきた。「歴史」とは完結した過去の事象を、ただ暗記し、教養の一端に置く科目ではない。現在の私たちがまさにその最中にあるように、過去の全ての人々の生もまた、刻々と「なってきたもの／なりつつあったもの」であることを追体験し、翻って自身の生の一助とするのが、歴史を学ぶ本義なのである。自身の価値観や観念を一旦置いて、現代からすれば遠い観念、理解を超えた慣習や制度、宗教、造形感覚といった「無限の多様性」に直面することもまた、歴史を学び「世界」に接する修練となる。とはいえ、一定の基礎的知識も踏まえなければ、「歴史」を思考するのは難しい。そこで本授業では、時間軸や空間軸に沿ったいわゆる「世界史」的事項も復習しつつ、理解を深める。その上で第三の軸として「造形」への注目を提示し、独自の視点で「世界の歴史」を考える 15 回を展開しようと思う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イントロダクション：授業の概要と目標</li> <li>2 全ての「道」は「世界」に通ず：古代文明の成立と「道」の開拓</li> <li>3 広場と神殿：キリスト教世界の誕生と発展</li> <li>4 人像と抽象：ユダヤ／イスラム的世界観の基礎</li> <li>5 異界と他者：「冥界」の生成と地獄の想像力</li> <li>6 移動と定住：ユーラシアの遊牧的集団</li> <li>7 西欧世界の豊饒なる周縁：東欧／ルーシ諸国の概要</li> <li>8 紙と印刷と書物：世界的「メディア」の誕生と成長</li> <li>9 東アジアの中世：冊封体制から見る琉球王国／朝鮮半島／室町幕府</li> <li>10 駆け巡る白い黄金：中国磁器の世界交易</li> <li>11 嗜好品の 18 世紀：お茶とコーヒーとチョコレート</li> <li>12 山丹交易と蝦夷錦：近世アイヌと「世界」の遭遇</li> <li>13 鉄とガラスとコンクリート：産業革命の 19 世紀</li> <li>14 帝国主義とオリエンタリズムの狭間：支配と抵抗の諸相</li> <li>15 まとめ：今日の「世界」的課題へ</li> </ol>
実務経験のある教員	
授業時間外学習	<p>授業理解のためには、高校までの「世界史」的な知識が必要である。授業時にも随時フォローを図るが、履修生各自の積極的学習や関心が必要である。また、世界の地理的な理解も欠くことができない。最も容易な予習方法として、随時世界地図（地球儀など、デジタルでもアナログでも良い）を眺め、地形の特色や国、都市、河川、海などの所在地に関心を持っておくことを勧める。</p>
評価方法	<p>複数回の小レポート（30%）、学期末の筆記試験（70%）によって評価する。 ※基本的に 7 割以上の授業出席を単位取得の条件とする。</p>
指導方法	提出されたレポートのフィードバックとして、授業内で講評や個別の質問への回答などを行う。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	各回授業時に適宜紹介、提示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	人文地理学		授業コード	10001750	
担当教員	藏田 典子				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期
関連資格					

授業実施方法	対面授業（本授業は金曜日・1限2限の隔週授業になります。授業日は、4/14、4/28、5/19、6/2、6/16、6/30、7/14、7/28 です。ご注意ください。）				
使用するアプリ等	KDU ポータル及び Teams、Stream、Forms				
履修制限等	2015 年度以降入学生限定				
授業の目的と到達目標（学習成果）	本授業の目的は、人文地理学がこれまで蓄積してきた方法や特有の視点を学ぶことで、身近な場所・空間に対する、成り立ちを理解することである。本授業の到達目標は、人文地理学の基本的な視点・方法を理解し、多様な現象を地理学的にとらえる発想力を養い、地域の魅力や課題、そしてグローバル化などへの関心を高めることである。				
授業計画の概要	<p>地域は自然と人間の関係、社会的関係が織りなす場であり、それらを支える制度、文化が覆う場である。人文地理学は、その地域が抱える課題が、なぜその場所で生成されたのか、過去から現代における様々な事象がそこで成立された理由を考え、リサーチする学問である。</p> <p>私が担当する授業では、この人文地理学が蓄積してきた、空間から事象を捉える特有の視点を学ぶことで、自ら問いを生み出し、その問いの解明に向けて実践し、それを伝えるためにはどのような見方が必要かという点に注力していきたい。受講生の地域や空間、場所などに対する関心を高め、大学を卒業しても使える基礎的な知識から、人文地理学を応用する方法まで扱いたいと考える。</p> <p>具体的には、通っているキャンパスの周りには何があるのかという身近な話題から取り組んでみたい。時代の異なる複数の地形図を用いて、キャンパスが建設される前には何があったのかという過去と現在を比較しながら、人文地理学的手法を習得できるようにする。普段、気に留めることが無かった自分たちの地域の事を調べることで、実は歴史的な出来事がそこに眠っているかもしれない。地形図を用いて、様々な地域・時代の多様な現象を、人文地理学の視点と方法から解く考察プロセスを講義形式で示していきたいと考える。</p> <p>また、グローバルで起きた事象が、私たちが暮らす地域に影響を与えることは、今後より一層増えるであろう。例えば、新型コロナウイルスは世界に衝撃を与え、日本を含めた多くの国で移動が制限された。グローバルの事象が地域に及ぼす影響は、多くの学問で研究対象とされているが、人文地理学では、空間的な視点から捉える事で、このようなグローバルな問題に貢献できるであろう。特に、先の見えない混沌とした時代の中で、社会に出ていく多くの学生には、人文地理学の授業を通して、地域の見方とその社会的現象を理論的に考える力を養って欲しいと考える。そのような力が形成できるような授業を目指し、これから自分の力で生きていく学生たちに、生きる力を身につけられるような講義を実施していきたい。</p>				
授業計画	第1回 ガイダンス 人文地理学とは 15回の概要説明と地図の読図 第2回 地図から考える過去・現在 キャンパスの周りには何があるのだろうか 第3回 地図から読む歴史 第4回 アートと地域①—大規模なアートプロジェクトがもたらすもの— 第5回 アートと地域②—地方におけるアートと地域— 第6回 地域の課題を地理学から考えよう①（都市と地理学） 第7回 地域の課題を地理学から考えよう②（都市と地理学） 第8回 前半の振り返り、中間レポート（課題1）の説明 第9回 グローバル化と地理学①—アジアを事例に— 第10回 グローバル化と地理学②—ヨーロッパ・北米を事例に— 第11回 地理学と農村、祭礼 第12回 地理学と表象、観光空間とイメージ 第13回 地理学の応用（公共政策、市民運動） 第14回 地理学における調査法 第15回 まとめ、期末レポート（課題2）の説明				
実務経験のある教員					
授業時間外学習	普段何気なく見ている景色や地域は、どのように成り立っているのだろうか。このような疑問を常に持ちながら、探求していると、何気ない空き地や無味乾燥した道路にさえ、歴史的な意味は眠っている可能性がある。地域などに興味や関心を持って欲しい。				
評価方法	講義中の小テスト（20%）、中間レポート（40%）、期末レポート（40%）である。レポートの作成手順は講義中に説明するが、レポートを作成する際は、できるだけ書籍を利用することを心掛けて欲しい。また、締め切りは守ること。				
指導方法	この授業は講義形式で行う。最初の10分程度は前回の授業の振り返りを行い、知識の定着を計る。その後、その回の講義内容を説明する。最後の10分程度に、小テスト（不定期）を実施する場合もある。				
使用テキスト					
参考テキスト・URL	参考文献・URLなどは授業中にて紹介する。				
各自準備物	高校時代に使用した地図帳や資料集など（必須ではないため、購入する必要はない。）				
実習費					
その他					

科目名称	文化人類学 ①②		授業コード	10101512	
担当教員	行木 敬				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会/ 人間・歴史・社会
年次	カリキュラムにより異なります。	開講年度	2023	開講学期	前期/後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル、および Office365 (OneDrive、Forms、Stream)
履修制限等	特になし
授業の目的と到達目標 (学習成果)	この授業の目的は、デザインやアートの理解や創作に有用な、異文化についての知識や各種の文化理論を修得することです。 ・目標 1：文化人類学の基本的な視座である文化相対主義を説明することができる。 ・目標 2：機能主義、構造主義、象徴論、境界論など、各種文化理論を説明することができる。 ・目標 3：それらの理論を使い、自分の身近にある様々な文化事象を分析することができる。
授業計画の概要	世界各地の文化、特に信仰（世界宗教から各地の伝統的な民間信仰、神話や民話、呪術的儀礼など）を事例にとりながら、文化人類学の視点、および分析のための諸理論を解説していきます。 授業にあたっては、私自身のニューギニア調査など遠い異文化の事例と、ポップカルチャーなどみなさんに身近な自文化の事例を、同等に取り上げ、同じ理論で分析していくことで、それらが地続きの事象であることを示したいと考えています。
授業計画	01：イントロダクション — 授業ガイダンス+相対主義編 1：異文化理解とは 02：不思議の国の昼休み — 相対主義編 2：自文化の相対化と異文化理解 03：一神教における「神」とは何か？ — 相対主義編 3：初期理論における宗教の定義 04：精霊から悪魔へ — 相対主義編 4：初期理論における呪術の定義 05：私は世界で世界は私 — 相対主義編 5：アジアの諸宗教からみた初期理論の問題点 06：魔法少女とオセアニア — 相対主義編 6：呪力マナの観念からみた初期理論の問題点 07：お父さんのいない島 — 相対主義編 7：フィールドワークと新しい文化観 08：魂を落とした話を理解する — 相対主義編 8：システム論的文化観と文化相対主義 09：妖術師ルイスの告白 — 分析理論編 1：機能主義 10：アスディワルの奇妙な冒険 — 分析理論編 2：構造主義 11：オバケの作り方・神さまの作り方 — 分析理論編 3：境界論 12：そうだ、カッパのせいになしよう。 — 分析理論編 4：解釈論（1. 解釈を通じた文化の変化） 13：日本の寿司とアメリカの SUSHI — 分析理論編 4：解釈論（2. 解釈を通じた異文化の受容） 14：病を投げ捨てる方法 — 分析理論編 5～6：象徴論+癒しとコミュニティ（1） 15：私を世界につなぎ直すための物語 — 分析理論編 6～7：癒しとコミュニティ（2）+物語論
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業後に「第〇回の復習」というキーワード入力フォームを公開します。ここに、その日の授業で書き取ったキーワードを入力、送信することで出席とします。授業への質問・コメントもこのフォームで収集します。返事は次回授業の冒頭でおこないます。
評価方法	上記「第〇回の復習」には、授業内容を確認するミニテストが毎回付きます。これら全 15 回のミニテストの点（計 45 点）と、期末レポートの点（55 点）の合計で、最終的な成績を算出します。 期末レポートには 3 つの採点ポイントを設けます。詳しくは初回の授業で説明します。
指導方法	期末レポートへのコメント、および出席状況やミニテストの正答状況を加えた「採点明細」という書類を、受講生ひとりひとりに作成し、ダウンロード可能な形で公開する予定です。
使用テキスト	教科書は使用しません。詳細なレジメを毎回配布します。
参考テキスト・URL	授業進行に合わせて紹介していきます。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	日本民俗学 ①②		授業コード	10102561	
担当教員	志賀 祐紀				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期/後期
関連資格					

授業実施方法	遠隔授業（オンデマンド）
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	(1) 日本の伝統文化について理解し、2つ以上の具体的な民俗の説明ができるようになる。 (2) 日本の伝統文化と現代、或いは芸術やデザインとの関わりについて理解し、2つ以上の具体的な事例を説明できるようになる。 (3) 自らの生活の場における民俗の諸相を調べ、具体的に述べるができるようになる。
授業計画の概要	日本民俗学とは、日本の伝統文化を対象として、日本とは、或いは日本人や日本文化とは何かについて考え、明らかにしようとする学問である。昨今、民俗学の視点は多様化している。研究者が現代社会の様々な現象に注目したり、アーティストやデザイナーが民俗学的関心を持ちながら活動したりするなどの事例が見られる。つまり、日本民俗学とは決して過去の日本の伝統文化に関心を持つ者だけの学問ではなく、現代に生きる者、そしてアーティストやデザイナーなどの表現者にも関わりがある学問なのである。本講義では、年中行事、信仰、祭りなどの日本の伝統文化の具体的な事例を取り上げながら学習する。さらに、現代社会や、芸術、デザインと民俗学の関わりについても言及する。
授業計画	1：日本民俗学とはなにか 2：民俗学の成立と柳田国男 3：『遠野物語』を読む 4：年中行事と民俗 5：信仰の民俗 6：怪異の民俗 7：女の民俗 8：祭りの民俗 9：現代と民俗 10：芸術家のフィールドワーク 11：写真と民俗 12：デザインと民俗 13：メディアと民俗 14：現代アートと民俗 15：まとめ
実務経験のある教員	
授業時間外学習	自分の家や住んでいる地域でおこなわれる行事やしきたりを普段から注意深く観察すること。
評価方法	毎回の授業のミニレポート 50%、学期末レポート 50%。 ミニレポート提出が 10 回分に満たない場合、学期末レポートの提出が無い場合は E 評価とする。
指導方法	次回の授業日までに、ミニレポートの中の特徴的な見解、主な質問や誤解についての解説、学生のよくできた答案等を課題講評として紹介する。課題講評は KDU ポータル(授業資料)で配信する。
使用テキスト	適宜プリントを配布する。
参考テキスト・URL	その都度指示する。
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	法学(日本国憲法を含む) ①②		授業コード	10101590	
担当教員	脇田 吉隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会/ 人間・歴史・社会
年次	1	開講年度	2023	開講学期	前期/後期
関連資格	教職				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDUポータル及びZoom
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	私たちは一人の人間として社会で生活をしている。その中には法律に関係することは意外と多い。私たちは国家や社会の構成員として一定のルールを定めて生活している。この授業を学ぶ学生は日常生活における社会問題を社会現象として捉え、その法律・憲法問題を法・憲法現象として捉えて、具体的な社会現象を法学的・憲法学的に解決する方法を習得することができることを授業の目的とする。 一人ひとりの個人が持っている「平和な社会で自由で豊かで幸せに暮らしたい」という要望を憲法学的に実現する方法を論じることができることを到達目標とする。
授業計画の概要	憲法学をどのような方法で学ぶかを理解し、日常生活と法の関わりの中で、憲法の基本原理は何かを学び、具体的な法現象・憲法現象を挙げて法学的・憲法学的に解決する方法を学ぶ。人権問題、統治機構についての基本的理解と問題解決方法を学ぶことにする。
授業計画	1：法学・憲法の学び方これまでの教育の問題点と新しい視点について 2：日常生活における法と憲法のかかわり 法と憲法は何か 人の一生と法 3：日本国憲法の基本原理 1 国家の最高法規近代憲法から現代憲法 4：日本国憲法の基本原理 2 基本的人権の尊重、国民主権、平和主義 5：日本国憲法の人権問題 1 人権の享有主体外国人の人権 6：日本国憲法の人権問題 2 平等権法 の下の平等 7：日本国憲法の人権問題 3 自由権 表現の自由とプライバシー 8：日本国憲法の人権問題 4 自由権 結社の自由と通信の秘密 9：日本国憲法の人権問題 5 社会権 生存権 10：日本国憲法の人権問題 6 社会権 教育を受ける権利 11：日本国憲法の統治機構 1 立法機関としての国会 12：日本国憲法の統治機構 2 行政機関としての内閣 13：日本国憲法の統治機構 3 司法機関としての裁判所 国民の司法参加 14：日本国憲法の統治機構 4 地方自治 15：全体のまとめ及び授業内テスト
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業の最後に次回テーマを知らせるので、参考テキストで30分の事前学習をしておくこと。
評価方法	授業内テスト(1/2)、毎回授業で提示する課題レポートと確認テスト(1/2)の割合で総合的に評価する。
指導方法	毎回授業時間に提出してもらったレポートを第14回の授業で提出状況を確認して解説する。 第9回目に確認テストを行う。 第15回目の授業で毎回授業の振り返りとして、再度テーマを選んでもらいレポートを書いてもらう。
使用テキスト	
参考テキスト・URL	播磨信義・上脇博之・木下智史・脇田吉隆・渡辺洋編著 『新・どうなっている!?日本国憲法』 [第3版]「第9刷」 法律文化社 2023年4月
各自準備物	
実習費	
その他	第1回目に授業の進め方について話し合い、ルールを決めるので必ず出席すること。

科目名称	現代社会論	授業コード	20001740
担当教員	エルナンデス アルバロ		
単位数	2	授業形態	講義
年次	2	開講年度	2023
科目分類		開講学期	後期
人間・歴史・社会			
関連資格			

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータルと「Office 365(Teams 等)」
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	この授業では現代社会の成り立ちについて考えるための基礎を学ぶ。実例を踏まえながら社会科学の考え方や基礎概念を身につけることで、自分の日常生活と社会との接点を自分なりに考え、現代社会についての理解を深めることになる。
授業計画の概要	本授業において、社会科学の考え方を身につけるように「近代」、「国家」、「資本主義」と「イデオロギー」という四つの概念に焦点を合わせる。それらの概念をツールにして、好きな作品、ニュース、恋愛や人間関係、メディア表現、文化産業、広告分析、キャラクターと物語、SNS など、身近な現実について考察する。簡単なグループワーク (アクティブ・ラーニング) を行う予定がある。
授業計画	1 : 授業についてのガイダンスと「社会」についての導入。 2 : 悪魔との契約と神話の魔力。 3 : 社会について考える: 「自由意志」とイデオロギー。 4 : 現代社会について考える。 5 : 近代の精神、資本主義と国民国家。 6 : 日本、近代とつながり。 7 : 近代について考える。 8 : 「売れないものには価値がない」? 9 : 「文化産業」、芸術と無限の価値。 10 : 資本主義について考える。 11 : リベラリズムと主権国家。 12 : 「人間の条件」と〈世界〉。 13 : 近代国家について考える。 14 : 表現の「民主化」、SNS と AI。 15 : 社会は私たちの行為で成り立っている。
実務経験のある教員	
授業時間外学習	授業前には、当該授業のキーワードやテーマについての資料を確認したり、調べたりする。授業後には、簡単なグループワークの準備やクイズによって、授業で見た内容について復習し、考える。
評価方法	各回の授業のコメントシート 40%、課題 (クイズやアンケート) 30%、試験の代わりレポート 30%。また出席が 10 回に満たない場合は E 評価となる。
指導方法	次回の授業日やチームズで、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案などを紹介する。
使用テキスト	授業資料を配布します。
参考テキスト・URL	井上俊/長谷正人編著『文化社会学入門—テーマとツール—』(ミネルヴァ書房)、井上俊/伊藤公雄編著『社会学ベーシックス』(世界思想社) シリーズ、特に: 『第 1 巻自己・他者・関係』、『第 2 巻社会の構造と変動』、『第 3 巻文化の社会学』、『第 7 巻ポピュラー文化』
各自準備物	アクティブ・ラーニング、コメントシート、配布資料や課題には Teams (Microsoft 365) を使用します。授業中に端末 (スマホ、タブレットなど) を確認できるように用意した方が、おすすめします。
実習費	
その他	



科目名称	知的財産権入門		授業コード	20001621	
担当教員	岡本 智之				
単位数	2	授業形態	対面授業	科目分類	必修 (M、I 生限定)、 歴史・文化・社会/ 人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	教職、学芸員				

授業実施方法	対面授業 (状況により遠隔に切り替えることがある)
使用するアプリ等	KDU ポータル
履修制限等	重要事項通知：授業内において積極的な発言を行うこと。詳細は「その他」参照。
授業の目的と到達目標 (学習成果)	「知的財産」をどのように保護し、「知的財産権」をどのように活用すれば、企業の市場競争力や事業継続性に寄与するのかを理解する。これにより、社会活動を営む中で必ず直面する「知的財産権」の諸問題に関する感度を高め、「気付き力」及び「対処する力 (専門家等に相談)」を習得する。
授業計画の概要	本授業では、技術、ブランド、デザイン、コンテンツ等の「知的財産」を保護するための法制度 (知的財産法) について、その意義及び「実社会」での機能 (役割) を説明しつつ、「知的財産権」の活用がなぜ必要なのかを講義する。特に、芸術的創作活動を行う者に密接に関係する意匠権 (デザイン保護) 及び著作権 (コンテンツ保護) の取得要件や活用方法を講義する。
授業計画	1：知的財産権制度総論 [全体像] 2：意匠権 (その1) [保護対象] 3：意匠権 (その2) [登録要件] 4：意匠権 (その3) [保護形式] 5：意匠権 (その4) [意匠権の効力] 6：意匠法 (その5) [不正競争防止法との関係] 7：著作権 (その1) [著作物] 8：著作権 (その2) [著作者と職務著作] 9：著作権 (その3) [著作者人格権] 10：著作権 (その4) [著作財産権] 11：著作権 (その5) [著作財産権の効力と制限] 12：商標権 (その1) [保護対象、登録要件、商標権の効力] 13：商標権 (その2) [不正競争防止法との関係] 14：ブランディング論 15：特許権 [保護対象、登録要件、特許権の効力]、総まとめ
実務経験のある教員	弁理士として様々な知的財産の取り扱いに関する諸問題に対応してきた経験に基づき、実務的観点から具体例を多用し、知的財産権の基礎について講義する。
授業時間外学習	知的財産権関連のニュースに関心を持ち、該ニュースにおいて「何が問題だったのか」の理解に努めること。より理解を深めたい者には、授業後に「参考テキスト」の該当部分を確認することを推奨する。
評価方法	定期試験にて評価 (100 点満点)。 本科目は出席確認・管理を行わない (評価対象としない)。 定期試験では、社会活動を営む中で必ず直面する「知的財産権」の諸問題について「気付き力」を発揮できるか、基本的な内容を問う。 具体的には、正誤問題 (○×問題) を 10 問出題し、その正答率にて評価する。 ・「誤」の場合にはその理由の記述を求める。 ・「正」の問題：選択で 10 点。 ・「誤」の問題：選択で 3 点、誤り箇所の指摘で 3 点、誤っている理由の説明で 4 点 (計 10 点)。
指導方法	毎授業後、「実社会」での機能 (役割) という観点から授業内容を復習し、不明点があれば、積極的に「質問」を行い解消しておくこと。 「質問」はメール (アドレスは初回授業時にアナウンス) で受け付ける。
使用テキスト	随時、教材資料 (オリジナルテキスト) を KDU ポータル「授業資料」にアップロードする。 各自、プリントアウト等して授業に臨むこと。
参考テキスト・URL	知的財産法入門 [第3版], 茶園成樹 編, 有斐閣, 2020 年 <a href="http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641243422">http://www.yuhikaku.co.jp/books/detail/9784641243422</a>
各自準備物	
実習費	
その他	本授業はインタラクティブ性を大切に (適宜、発言を求める)。 したがって、本科目を履修する者は「積極的な発言」を約束しなければならない。 本趣旨は「人前で話すこと」や「考えること」の訓練にあり、たとえ発言内容が間違っていたとしても何ら問題はない。

科目名称	マーケティング論		授業コード	20001210	
担当教員	王地 裕介				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会／人間・歴史・社会
年次	2	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格					

授業実施方法	対面授業（状況により遠隔に切り替えることがある）
使用するアプリ等	KDU ポータルと Teams ・ 課題提出は KDU ポータル。 ・ 授業資料は Teams で配信、共有。
履修制限等	
授業の目的と到達目標（学習成果）	授業の目的 マーケティング論に関する基本的な概念、背景、定義について自分の言葉で説明ができる。  到達目標 マーケティングに関する分析において、適切な理論を取捨選択し、適用することができる。 その分析を踏まえて、有効なマーケティング戦略を策定し、論じることができる。
授業計画の概要	マーケティングとは、市場の創造を行い、価値を生み続けることで競争優位を構築するための重要な企業活動である。本科目は2部構成から成り、様々なマーケティングの考え方を学ぶ。 そしてマーケティングの4P(Product, Price, Place, Promotion)に基づいたマーケティング戦略に必要な知識の土台を作ることを狙いとす。 第1部（1～5回）は、マーケティング論の概要や分析フレームワークの基礎を扱う。第2部（6～15回）では、マーケティングの4Pに基づいた具体的なマーケティング戦略の基礎概略を扱う。
授業計画	第1回：「オリエンテーション、マーケティングの基本的用語について」 授業概要（進め方と評価方法）。マーケティング論の略歴とニーズ、シーズやサービスといったマーケティングの基本的な用語について 第2回：「STPとマーケティング・コンセプト」 STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）の概要とコンセプト作成について 第3回：「マーケティング戦略とはなにか」 戦略とは何か、そのために必要な現状とビジョンのギャップ分析について 第4回：「戦略策定の内部分析（事業ポートフォリオとマーケティング・プロセス）」 マーケティング戦略作成のための内部分析の概念とそのためのツールについて 第5回：「戦略策定の外部分析（マーケティングリサーチとマクロ環境分析）」 マーケティング戦略作成のための内部分析の概念とそのためのツールについて 第6回：「マーケティングの4Pとマーケティング・マネジメント」 マーケティングの4P(Product, Price, Place, Promotion)の概念と、マネジメント方法について 第7回：「商品ライフサイクル(Product)」 ライフサイクル理論から見た商品の分析とマーケティング方法について 第8回：「価格設定戦略(Price)」 マーケティング論における商品価格設定の戦略について 第9回：「市場の細分化(Place①)」 マーケティング論における STP の詳細と、市場設定について 第10回：「ポジショニング戦略(Place②)」 設定した市場におけるポジショニング戦略とその具体例 第11回：「消費者行動モデル(Promotion①)」 顧客としての消費者行動の分析モデルについて 第12回：「顧客生涯価値の最大化と、カスタマー・リレーションシップ(Promotion②)」 顧客生涯価値（LTV）の概念とその最大化を目指すマーケティングについて 第13回：「広告と販売促進(Promotion③)」 マクロな視点で顧客への訴求を行う広告と販売促進のマーケティング方法について 第14回：「ブランド構築(Promotion④)」 ブランド構築の概要と、そのマーケティングについて 第15回：まとめと復習 第1～14回講義内容のまとめ
実務経験のある教員	本講義は、①実務経験教員（2010年から学習塾を起業・経営）が、②実践したマーケティング戦略による具体的事例と理論的側面を組み合わせながら、授業を進める。
授業時間外学習	授業時間外で事前の予習を行い準備して授業に出席すること。 毎回、学習内容に応じた課題を課す。受講後には復習を行い、授業終了後（遠隔授業の場合は、授業公開日）の4日以内に提出すること。 ※授業日（授業公開日）が木曜日10時であった場合、提出期日は日曜日23:59が期日となる。

評価方法	レポート形式で毎回の授業課題と期末試験を行う。 配点は以下の通りである。 ①授業内課題（40%） ②期末試験（60%）
指導方法	毎回の課題は全員に共有する。 課題で優秀な回答事例や特徴的な誤答・理解できていない点を、次回授業にてフィードバックならびにクラスで共有する。 毎回の講義内容に対しての質問は、教員メールにて受付け、返答を行う。メールアドレスは初回授業時に案内する。
使用テキスト	講義のなかで適宜紹介・資料配布する。
参考テキスト・URL	①恩蔵直人『マーケティング（日経文庫経済学入門シリーズ）』日本経済新聞社 ②石井淳蔵『マーケティングを学ぶ（ちくま新書）』筑摩書房
各自準備物	
実習費	
その他	

科目名称	教育心理学	授業コード	10090003
担当教員	吉國 秀人		
単位数	2	授業形態	講義
年次	1	開講年度	2023
関連資格	教職	科目分類	歴史・文化・社会 (2019・2020年度生のみ)
		開講学期	前期

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	子どもの学びや発達に関する基本的な心理学の理論を学び、それらを用いて学校現場における子どもの学習や生活、行動を心理学的観点から理解できるようになる。教師としての資質を高め、教育・指導の在り方を心理学的な知見を取り入れて自分なりに考えていけるようになることを目指す。
授業計画の概要	基本的な心理学的理論・発達理論・教授学習過程に関わる理論を幅広く紹介し、学校現場における児童・生徒に対する理解、指導、かかわり、クラス運営にどのように活用できるか検討する。また、学校現場で生じる様々な心理的問題を取り上げ、その対処法について共に考えていく。
授業計画	1: 教育と心理学—教育心理学の特徴, 教育心理学の方法— 2: 発達の基礎 (1)—発達とは, 発達に影響を及ぼす外因と内因 3: 発達の基礎 (2)—乳幼児の発達と愛着理論, 認知発達理論, エリクソンの発達理論 4: 発達の基礎 (3)—精神分析学と精神分析的発達理論, その他の発達理論, 発達と学習の関係— 5: 学習の基礎 (1)—学習とは, 行動主義と学習, 学習の諸理論と学習のタイプ— 6: 学習の基礎 (2)—記憶のメカニズム, 先行オルグ論と有意学習— 7: 発達を踏まえた学習指導の工夫 (1)—学習者の誤概念を捉える方法と実例, 適性処遇交互作用— 8: 発達を踏まえた学習指導の工夫 (2)—概念形成, 授業における援助の工夫の実例— 9: 学習意欲をはぐくむ教育—動機付け, 知識獲得と意欲との関係— 10: 集団の心理と教育評価 (1)—学びの場をつくる教師, 教育評価とは, 教育評価のタイプ— 11: 集団の心理と教育評価 (2)—児童生徒理解のための視点, 情報の収集方法— 12: 生徒指導の諸課題—カウンセリングと人間性心理学, 教育相談, 児童虐待への対応— 13: 適応と障害の理解の基礎 (1)—学校不適応と精神疾患, 不登校のタイプ— 14: 適応と障害の理解の基礎 (2)—特別支援教育とは, 発達障害の理解— 15: まとめと討論—発達理解と教育の意義, 学習を支える指導を工夫し続ける教員とは—
実務経験のある教員	
授業時間外学習	現在の教育問題や青少年を取り巻く環境に対してアンテナをはり、普段から新聞やニュースなどを確認するなど、教育現場の抱える問題や、現代の子どもが持つ問題について、自分なりに考えておくこと。
評価方法	授業への貢献度(30%)と期末試験(70%)で、評価を行う。
指導方法	次回の授業日で、課題の解説をしたり受講生からの質問を抜粋して紹介する。なお、感染症拡大防止の観点から、やむをえず、急ぎよ遠隔授業形式の措置をとる場合がある。その場合は、KDU ポータルにて、使用するツール等を予め連絡する。
使用テキスト	講義では特定の教科書(テキスト)は指定せず、毎回、プリントを配布する。 学びの参考にしてほしい文献情報(例:学習指導要領など)も、講義内で適宜、紹介する。
参考テキスト・URL	子安 増生・田中 俊也・南風原 朝和・伊東 裕司 (2015)『教育心理学(ベーシック現代心理学6)』有斐閣 本郷一夫・八木成和(編)(2008)『シードブック 教育心理学』建帛社 進藤聡彦・谷口明子(2020)『教育・学校心理学』放送大学教育振興会
各自準備物	ノート
実習費	不要です
その他	教育を志す者としての態度で授業に臨むこと。現在の教育問題や青少年を取り巻く環境に対して素朴な疑問を持ち、心理学的理論と関連付けて考える準備をすること。 基礎教育・教職課程共通科目。

科目名称	生涯学習概論		授業コード	20091040	
担当教員	藤本 隆				
単位数	2	授業形態	講義	科目分類	歴史・文化・社会 (2019年度以降入学生) / 必修(博学)
年次	1	開講年度	2023	開講学期	後期
関連資格	博学				

授業実施方法	対面授業
使用するアプリ等	KDU ポータル。コロナ感染時のみ Teams を使用する場合があります。
履修制限等	
授業の目的と到達目標 (学習成果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の意義とその内容・方法を理解し、それらの基礎になった日本及び諸外国の生涯学習の発展と特質について説明できる。</li> <li>・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育との関係、及び高齢者が中心の日本の生涯学習の現状との関係を理解し、基礎的な説明ができる。</li> </ul>
授業計画の概要	<p>博物館(美術館を含む)は、社会教育施設の一つであり、その運営や活動の基本には生涯学習の視点が欠かせない。生涯学習の考え方とその歴史、家庭教育や学校教育、博物館以外で行われる社会教育の特質や基礎について紹介するとともに、博物館が生涯学習の体系の中で果たす役割について論じる。なお、グループワークにより授業を進めるので、各自、積極的にグループでの討議、作業に参加すること。</p> <p>また、社会教育施設のフィールドワークを各自行った結果をまとめ、順番にプレゼンテーションを行う。</p>
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1: 生涯学習概念の登場</li> <li>2: 生涯学習の内容と方法</li> <li>3: 生涯学習概念の展開</li> <li>4: 日本における生涯学習の系譜</li> <li>5: 社会教育行政の特徴と生涯学習振興行政・一般行政との関係</li> <li>6: 生涯学習の新たな流れ</li> <li>7: 生涯学習支援の特質と学習成果の評価</li> <li>8: NPO と生涯学習 (近隣の NPO の施設を見学予定)</li> <li>9: 生涯学習における学校教育支援</li> <li>10: 社会教育施設の役割 (博物館と学芸員を中心に)</li> <li>11: 社会教育の専門職員 (図書館・公民館と司書・社会教育主事を中心に)</li> <li>12: 社会教育指導者と社会教育関係団体</li> <li>13: 学習情報の提供と学習相談と家庭教育</li> <li>14: 現代の社会教育施設に求められるもの</li> <li>15: NPO、民間教育機関との連携</li> </ol>
実務経験のある教員	社会教育主事や NPO スタッフとして社会教育や生涯学習に携わった実務経験を活かし、実際の事例や現場での課題を中心に、生涯学習の基礎について講義する。
授業時間外学習	各自、社会教育施設のプレゼンテーションに備え、近隣生涯学習施設のフィールドワークか調査研究を行うこと。(1時間) また、自分が選んだ施設以外に、生涯学習について学ぶ上での基礎的な知識を持つため、近隣の区民センター、公民館、図書館、博物館等の見学や利用、講座への参加、生涯学習施設のホームページの閲覧に努めること。(1時間)
評価方法	中間・期末のレポート 50%、毎回の授業で実施するグループワークの中での発表や記述内容 35%、社会教育施設のフィールドワーク・調査等の結果をまとめたプレゼンテーション内容 15%。 なお、レポートは中期・期末の2回両方とも、期日までに提出すること。提出がない場合は、単位の認定対象とならないので注意のこと。
指導方法	レポート提出以降の授業日、または授業アンケートのコメントフィードバック時に、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や、優れたレポート等の紹介を行う。
使用テキスト	オリジナル資料の配布
参考テキスト・URL	田中雅文、坂口緑、柴田彩千子、宮地孝宜『テキスト生涯学習-新訂2版:学びがむく新しい社会』学文社 2020
各自準備物	ワークショップにより授業を進めるので、各自、マジックインキ (色は自由、太さは細字より太いもの) を1本用意すること。
実習費	
その他	<p>講義のほか、必要に応じてグループワークにより授業を行います。</p> <p>履修にあたって、生涯学習の中で中心的な役割を果たす社会教育において重要とされる、「他者との協働学習」、「講師の講義のみならず、学習者どうしの主体的な学習」を意識してください。</p> <p>また、この授業では、受講学生がグループに分かれて、お互いに協働しつつ主体的に学ぶグループワークを取り入れて生涯学習について学んでいく予定です。</p> <p>基礎教育 / 博物館学芸員課程 (必修科目)</p>